

令和4年度 沖縄県学力到達度調査の結果

沖縄県教育庁義務教育課

1 趣旨

- (1) 本県児童生徒一人一人の当該学年までの学習の定着状況を把握し、各学校における授業改善の充実を図るために実施する。
- (2) 各学年の教科分析を通して、年度末において自校の落ち込みのある領域を把握し、習得状況を揃える取組に生かす。

2 実施日・対象学年・教科

(1) 小学校

令和5年2月14日(火)

対象学年	教科
第5学年	国語、算数
第6学年	国語、算数

(2) 中学校

令和5年2月15日(水)

対象学年	教科
第1学年	国語、数学、英語
第2学年	国語、数学、英語

3 教科の調査結果 (3/10 時点)

(1) 小学校

対象学年	教科	受験した児童数(人)	正答率(%)	誤答率(%)	無解答率(%)	正答率30%未満の児童の割合%(昨年度値)
第5学年	国語	14,632	68.8	25.2	6.1	4.6 (7.7)
	算数	14,658	48.3	36.8	14.9	27.9 (22.6)
第6学年	国語	15,147	65.9	29.3	4.8	5.6 (8.0)
	算数	15,145	57.5	35.8	6.7	15.7 (44.4)

(2) 中学校

対象学年	教科	受験した生徒数(人)	正答率(%)	誤答率(%)	無解答率(%)	正答率30%未満の生徒の割合%(昨年度値)
第1学年	国語	13,904	54.9	37.1	8.0	16.4 (13.2)
	数学	13,883	44.4	41.2	14.4	29.3 (34.5)
	英語	13,826	42.0	52.3	5.7	27.9 (32.8)
第2学年	国語	13,874	49.9	41.6	8.6	19.8 (6.7)
	数学	13,883	43.4	43.7	12.9	28.7 (37.5)
	英語	13,783	50.3	44.2	5.4	26.1 (16.7)

4 結果の概要

(1) 小学校

第5・第6学年ともに国語の正答率が高く、算数の正答率が国語を大きく下回った。算数の問題の難易度が高かったとも言えるが、第5学年の算数においては無解答率が高かった。その要因として、データの活用に関する知識・技能の習得の不十分さが要因の1つとして挙げられる。第6学年の算数においては正答率30%未満の児童は、大幅に減少している。

(2) 中学校

第1・第2学年の国語において、正答率30%未満の生徒の割合が高かった。問題の難易度が高かったとも言えるが、自分の考えが伝わるように根拠を明確に書くことに課題がみられる。

第1・第2学年の数学においては、正答率30%未満の生徒の割合が減少し正答率を押し上げた。

5 各学年・各教科の状況と授業改善のポイント

(1) 小5〈国語〉

正答率 80%以上の児童は 27.4%、正答率 30%未満の児童は 6.1%であった。正答率 80%以上の設問が 7 題、正答率 30%以下の設問が 1 題あった。

◆物語文を読んで、自分が考えたことを書くことに課題がみられた。

○指導にあたっては、記述式の問題に関して、問題文や設問の内容を理解することや条件に合わせて正しく書くことに取り組む必要がある。国語科に限らず様々な教科等で条件に合わせて記述することを意識して取り組むことが大切である。

(2) 小5〈算数〉

正答率 80%以上の児童は 16.6%、正答率 30%未満の児童は 27.9%であった。正答率が 78%以上の設問が 1 題、正答率 30%以下の設問が 1 題あった。

◆二次元表のしくみを理解し、データの重なりについて説明する設問で最も誤答率が高く、事実や理由の説明など自分の考えを書くことに課題がみられた。

○指導にあたっては、目的に応じて集めたデータを二つの観点から、二次元の表に分類整理できるようにすることが重要である。

(3) 小6〈国語〉

正答率 80%以上の児童は 26.9%、正答率 30%未満の児童は 5.6%であった。正答率が 80%以上の設問が 5 題、正答率 30%未満の設問が 1 問あった。

◆言葉の特徴や使い方に関する事項、物語文を読んで作者の考えについて分かったことを書くことに課題がみられた。

○指導にあたっては、「登場人物の人物像」や「相互関係」「物語の展開」などの複数の観点から読むことで、物語の全体像を想像させることが重要である。文章の表現の仕方に注意し想像を豊かにしながら読むことが大切である。

(4) 小6〈算数〉

正答率 80%以上の児童は 20.5%、正答率 30%未満の児童は 15.7%であった。正答率が 80%以上の設問が 2 題、正答率が 30%以下の設問が 1 題あった。

◆平面図形を構成する要素に着目し図形の面積を求めること、事実や理由の説明など自分の考えを書くことに課題がみられた。

○指導にあたっては、表から見いだした変化や対応の特徴をもとの事象(図)と対応させながら他の数値の間においても成り立つかどうか規則性を確かめていく場面を設定することが大切である。

(5) 中1〈国語〉

正答率 80%以上の生徒は 14.1%、正答率 30%未満の生徒は 16.4%であった。正答率が 80%以上の設問が 1 題、正答率が 30%以下の設問が 1 題あった。

◆小学校で学習した漢字を正しく読むこと、描写をもとに人物について捉えたことを書くことに課題がみられた。

○指導にあたっては、「身につけたい資質・能力」を明確にし、言語活動を通して指導することが大切である。

(6) 中1〈数学〉

正答率 80%以上の生徒は 10.5%、正答率 30%未満の生徒が 29.3%であった。正答率 80%以上の設問が 2 問、正答率 30%以下の設問が 3 題あった。

◆資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題がある。

○指導にあたっては、大きさの異なる二つ以上の集団のデータの傾向を比較する場合、相対度数を用いると、各階級の度数について、総度数に対する割合が明らかになり、比較しやすくなる。また、特定の階級の相対度数に着目するだけでなく、小さい方からある階級までの相対度数の総和を見ることも大切である。

(7) 中1〈英語〉

正答率 80%以上の生徒が 3.5%であった。正答率 30%未満の生徒は 27.9%、正答率 80%以上の設問が 2 題、正答率 30%以下の設問が 10 題あった。

- ◆文脈に応じて適切な語句を選択し、正しい文法事項（代名詞の所有格）を用いて正確に書くことと自分のことや相手のことについて簡単な文や語句を用いて表現することに課題がみられた。
- 指導にあたっては、知識及び技能の向上に向け、実際のコミュニケーション場面を設定し思考、判断、表現することを繰り返す指導を行うことが大切である。

(8) 中2〈国語〉

正答率 80%以上の生徒は 6.4%、正答率 30%未満の生徒は 19.8%であった。正答率 80%以上の設問が 1 題、正答率 30%以下の設問が 3 問であった。

- ◆目的に応じて必要な情報に着目することができるかどうかをみる設問で誤答率が高く、文章の内容を適切に解釈し、自分の考えが伝わるように工夫して書くことに課題がみられた。
- 指導にあたっては、第1学年「書くことウ」をふまえ、第2学年の指導事項は「根拠の適切さ」「説明や具体例を加える」、各学年の関連をふまえ、当該学年で重視される部分をおさえることが大切である。

(9) 中2〈数学〉

正答率 80%以上の生徒は 8.6%、正答率 30%未満の生徒は 28.7%であった。正答率 80%以上の設問が 1 問、正答率 30%以下の設問が 4 題あった。

- ◆連立二元一次方程式において、座標平面上の 2 直線の交点の座標を求めることに課題がある。
- 指導にあたっては、二元一次方程式を一次関数とみて、表、式、グラフで捉えるとともに、交点の座標の求め方について考察する場面を設定することが大切である。設定したい。

(10) 中2〈英語〉

正答率 80%以上の生徒は 14.1%、正答率 30%未満の生徒は 26.1%であった。正答率 80%以上の設問が 1 題、正答率 30%以下の設問が 4 題あった。

- ◆「聞いたことや読んだことについて自分の意見を書く」英作文問題に課題が見られた。
- 指導にあたっては、自分の意見を書く問題において、誤答の原因がどこにあるかを見極め、つまづきのある箇所を繰り返し指導しながら、生徒の理解度や習熟度に応じた領域統合型の授業に取り組むことが大切である。

6 教科共通の課題

- ◆各教科における「記述式問題」から見える課題

考えたことを表現（書く、説明するなど）することに共通の課題がみられる。

小学校 国語

- ◆物語文を読んで、自分の考えたことを書く。 小5

3	五
---	---

 正答率 32.4%
- ◆物語文を読んで作者の考えについて分かったことを書く。 小6

3	六
---	---

 正答率 29.2%

小学校 算数

- ◆データの重なりについて説明する。 小5

2	(2)②
---	------

 正答率 14.2%
- ◆立体の段と面の数の変化の様子を見だし説明する。 小6

2	(2)
---	-----

 正答率 30.3%

中学校 国語

- ◆描写をもとに人物について捉えたことを書く。 中1

2	(3)
---	-----

 正答率 27.1%
- ◆自分の考えが伝わるように工夫して書く。 中2

2	(3)
---	-----

 正答率 27.1%

中学校 数学

- ◆事柄が成り立つ理由を説明する。 中1

5	(2)
---	-----

 正答率 16.7%
- 問題解決の方法を数学的に説明する。 中2

7	(3)
---	-----

 正答率 19.6%

中学校 英語

- ◆まとまりのある英文を聞いて質問に適切に応答する。 中1

3	(2)
---	-----

 正答率 8.2%
- ◆まとまりのある文章を読んで、自分の意見を述べる。 中2

10	(3)
----	-----

 正答率 18.1%

- 児童生徒が主体となり問題解決する機会と時間を増やす。
- 児童生徒が考えたり気づいたりしたことをアウトプットする時間と機会を増やす。

◆各教科で共通する課題

◆目的や「問い」を自分で明らかにして、条件に合うよう考え表現する力の育成

・条件を提示されて解いてはいるが、「条件に合っているか」の確認や、「誰に伝えるのか」「何のために伝えるのか」など、学習の対象や文脈から目的を自分なりに捉え、解決に導くことに課題が見られる。

◆課題が何かを明らかにし、解決を見通したり、振り返ったりしながら全体を捉える力の育成

・段落やまとまりなどで捉えることはできるが、全体を俯瞰して捉えて表現したり、自己を振り返ったりしながら解決に導くことに課題が見られる。

◆課題を解決するための知識・技能の育成

・設問によっては、課題解決するために必要な知識・技能の習得が不十分な部分も見られる。

7 共通実践事項

各教科の記述式の設問で、誤答率や無解答率の値が大きくなる傾向がある。その傾向を改善するために下記(1)～(6)に留意した授業改善を図る必要がある。

- (1) 子供から引き出したい「問い」を明確にし、その「問い」を生かすための教材研究や子供たちの思考を揺さぶる発問の吟味など「教師の手立て」を授業構想の段階で考える。
- (2) 学習のねらいに迫る意図的・計画的な発問、思考を広げ深める発問など学習過程や授業展開を意識した発問を工夫する。
- (3) 児童生徒が、課題について自分自身の考えを持つ場を単元や教材などの内容や時間のまとまり、一単位時間の授業で設定する。
- (4) 指導と評価の一体化の観点から、児童生徒の学習状況をしっかり見取り、フィードバックして学習改善・授業改善に生かす。
- (5) 1人1台端末の日常的・効果的な活用で、思考力・判断力・表現力等の育成を図る。
- (6) 各学校において、教科における共通する課題について分析し、「自分なりに考えること」「条件に沿って書くこと」「目的に応じて書くこと」など、全教科において組織的な授業改善を推進する。

各学校においては、新学習指導要領の目指す資質・能力の育成を、組織的・日常的な授業改善を通して推進し、児童生徒一人一人に合わせた効果的な支援を行う。

教師は、学びの連続性を意識し、児童生徒が学んだことを次の学習や家庭学習など様々な場面で活用したり、課題解決のために構想を立て実践し、自己の学びを振り返ったり改善していくような学びの充実を図るよう、日常的な授業改善を推進する。

参照 「『問い』が生まれる授業サポートガイド」

各教科の授業改善に向けて

子供たちが、課題解決へ向けて、自分なりに「問い」を立て考えるようにする。

子供たちが、他者や教材と関わりながら、学習の対象を捉え、課題解決へ向かうようにする。

子供たちが、学んだ事を他教科も含め様々な場面で活用し、確実に習得できるようにする。